「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」
学力向上実践研究（小学校）
平成２２年度委託事業完了報告書
【推進校】

都道府県名	山口県	番号	３５

推進校名	山口県長門市立仙崎小学校	研究主題	Ⅰ型

○　推進校として実施した内容

１　重点課題への取組状況

（１）１年次（２０年度）

「主体的に学び、自分のよさを発揮する子どもの育成」

～自分の考えをはっきり伝え合う力を育てる指導の工夫～

①　生活習慣・学習習慣の定着のための支援のあり方

②　意欲を高める学習過程の工夫

③　伝え合う場の設定の工夫

発表への意欲が高まってきたが、相手を意識した分かりやすい話し方を工夫するところまでには至っていない。

単純に解ける問題に対しては、自信をもって取り組むことができるが、新たな問題を解決するために既習内容を生かそうとする意識が薄い。

（２）２年次（２１年度）

「自分の思いや考えをもち、伝え合い高め合う子どもの育成」

①　言語事項等の基礎・基本や活用力など、「確かな学力」を育むための授業改善

②　自己有用感を感じ意欲をもって学習に取り組むための手だて

③　習熟度や個々の課題に応じた支援のあり方

授業（思考）の流れが分かる板書の工夫や子どもたちのノート指導に取り組み、子どもたちは、その時間の学習内容を明確に意識できるようになってきた。そして、自分の考えをもって主体的に学習に取り組める子どもが増えてきた。しかし、まだ、友達の考えや意見から自分の考えを深めたり高めたりする力が十分育っていない。

（３）３年次（２２年度）

「自分の思いや考えをもち、伝え合い高め合う子どもの育成」

①　伝え合い高め合う授業づくり

ア　３つの視点に沿った授業づくり

視点１　自分の考えや思いをもつ手立ての工夫

・　魅力ある教材を提示したり、学習の見通しをもたせたりして、導入の工夫を行うことで、自分の思いや考えをもてるようになってきた。

視点２　自分の考えや思いを交流して、高め合う手立ての工夫

・　学年に応じた書く活動を取り入れることによって、自信をもって自分の思いや考えを発表でき、話し合いを活発にすることにつながった。

・　ペア学習やグループ学習など多様な話し合いや交流の場を設定したり、考えや理由を比較・分類したりすることによって、みんなで学習を深めるための学習の

仕方が身に付いてきた。

視点３　活用する手立ての工夫

・　次の学習へ活用できるように、掲示物を工夫したり、目的や相手を意識した表現活動を取り入れたことで、子どもたちに活用しようとする意識が高まってきた。

②　言葉の力をつける基盤づくり

ア　読書指導

○　朝読書（木曜日の朝学）の習慣化

○　教室に「新刊図書ボックス」の設置

○　月１回の保護者ボランティアと先生による読み聞かせ

○　毎学期２週間の読書週間の設置

・　いろいろな本に触れる機会を増やすことによって、子どもたちの読書量が増えてきた。

○　読書貯金カードの活用

・　読書貯金カードは、読んだ本が目に見えて増えていくので、子どもたちへの読書意欲をさらに喚起させるものとして効果的であった。

イ　話したい聞きタイム

○　下学年…音声言語教材の利用

○　上学年…フリートーク、クイズトーク

・　話したい聞きタイムにより、子どもたちは、声を出して話したり、本を読んだりする活動に慣れてきた。

・　友達の発表につなげて話をすることができるようになった。

・　発表の仕方が、言葉によるものから、絵や音などを取り入れた発表も見られるようになるなど、表現方法が広がってきた。

・　話すことが苦手な子に対して、まわりの子が「待ってあげる」「聞いてあげる」ことができるようになってくるなど、活動をとおして人間関係を築いてきた。

ウ　みすゞタイム

○　今月の詩

・　子どもの感想や作品づくりに、みすゞさんの感性が生かされ、「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える子どもが増えてきた。

エ　地域との連携

○　金管、鯨唄（笹まつり、生涯学習発表会）による交流

・　５、６年生は、練習や発表の中で地域の方や仙崎中学校の生徒と交流し、自分たちの思いや考えを伝える機会をもってきた。こうした体験をとおして、あらかじめ準備した言葉については自信をもって発表することができた。しかし、交流していると、突然、自分の思いを伝えなければならない場面が生じることもあり、そうした時に、自分の思いをその場で考え、発表する力が必要になってくる。また、その力を培うためにもさらに地域との交流の機会を増やしていくことが大切である。

○　生活科、総合的な学習の時間

オ　話型・声のものさしの教室掲示

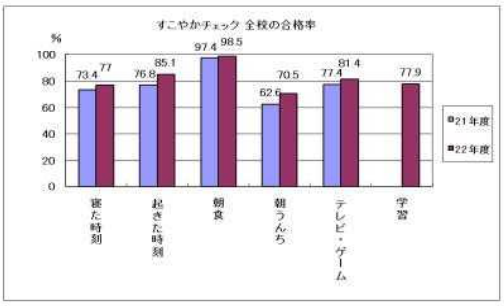
③　学びを支える習慣づくり

ア　すこやかチェックの充実活用

・　今年で７年目となるすこやかチェックの継続した取組により、子どもたちの生活習慣が維持されている。

・　テレビ・ゲームの時間は、１時間を目標にしているが、目標の達成率が８０％を超えるようになった。

すこやかチェックの昨年度との比較



・　どの項目についても、意識が高まり、達成率が上がってきた。

イ　学習習慣の定着化に向けた取組

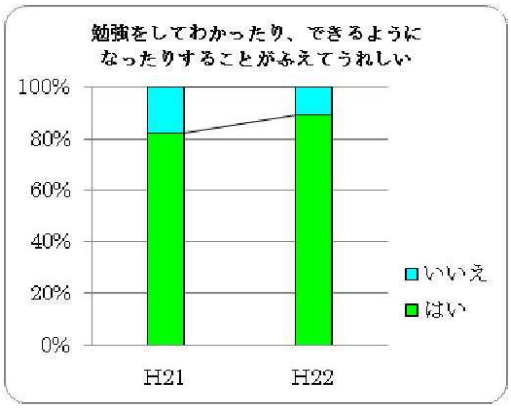
・　基本的な学習の構えとしての筆箱の中身の点検や下敷きの使用、鉛筆の持ち方、ノートの使い方について年度始めに全校で共通理解をし、一斉に実践することで、どの学級でも定着しつつある。

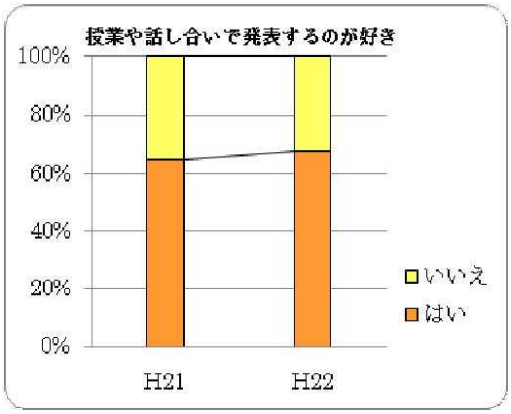
ウ　家庭学習の習慣化に向けた取組

・　「１０分×学年＋１０分」を家庭学習の時間の目安にし、内容についても、「自主学習の手引き」の資料を作り、配布して、自主的な学習が進められるようになってきた。今年度は、目標の達成率が８０％近くまで上がってきた。

エ　学習に関するアンケートの実施と活用

・　学習習慣や学習の様子についてのアンケート調査・分析をその後の学習に生かすように取り組んできた結果、勉強が分かったり、できるようになったりすることをとてもうれしく感じる子どもが増えてきた。また、授業や話し合いのとき、発表することが好きな子どもが増えてきている。





オ　家庭・地域との協働連携

・　「すこやかチェックだより」や「学校だより」、「学年だより」、「学級だより」による情報発信をとおして啓発に努めた。

（４）　その他

ア　授業公開

・　全員が低・中・高・特別支援ブロックに分かれて一人一授業研究に取り組んだ。

イ　授業評価

・　資質の向上や授業力アップにつなげるために教職員間で行っている。また、児童、

さらには保護者や地域の人からアンケートをとり、授業改善を図ったり、児童理解を深めたりする資料の一つとするとともに、開かれた学校づくりの一端を担うために全校で共同実施している。

ウ　ワークショップ型のＫＪ法による協議会

・　全教員が協議に参加しやすいようにワークショップ型のＫＪ法を取り入れた。研究授業を見て「よかったところ」と「改善点」を各自が付箋に書いていく。そして、グループごとにまとめたものを発表し合い、研究の成果と課題を明らかにしていった。そして、成果を全教員が共有し、日々の授業に生かしていった。

エ　教師間での授業交換

・　普段の授業の中で教師間で授業を交換し合うという取組を行った。授業後にお互いの感想を述べ合い、自分の教室の子どもたちを客観的に見つめ直すことで、次の授業に役立てることができた。

２　３年間の成果及び今後の課題

（１）　３年間の成果

○　家庭学習の習慣化が図られ、学習時間が増え、内容も豊かになってきた。

○　下敷きの使用や筆箱の中身を全校体制で徹底して取り組むことにより、子どもたちの学びの構えをつくることができた。

○　自分の思いや考えをもち、自分なりの表現方法を使って発表できるようになってきた。

○　次の学習へ活用できるように、掲示物を工夫したり、ノートの使い方を全校で統一して学習の振り返りのできるノートづくりに取り組むことによって、子どもたちに活用しようとする意識が育ってきた。

○　ペア学習やグループ学習など多様な話し合いや交流の場を設定したり、考えや理由を比較・分類したりすることによって、みんなで学習を深めるための学習の仕方が身についてきた。

（２）　今後の課題

○　友達の考えや意見をしっかり聞き、それをつないで自分の考えを深めたり高めたりする力が育っていない。

○　学力が二極化の傾向にあり、習熟度や個々の課題に応じた支援のあり方についてさらに研究を深めていく必要がある。